「平和と人権」市民ネットワーク情報　N08

事務局発行(℡ 0557-45-1182)　http://peaceito.moo.jp　　2016.9/23

ごあいさつ

こんにちは。今年は台風の当たり年のようです。台風 16 号による河川の氾濫・浸水、土砂崩れなどの被害が報じられています。皆様の近辺は大丈夫だったでしょうか。

さて、「市民ネットワーク情報」は８月は休刊にさせてもらいました。前号を発行した７月２２日からこれまでに、市内では様々な活動が取り組まれました。そのなかから、「市民ネットワーク」がかかわった活動を中心に、順に報告させていただきます。

8 月6日、「標的の村」上映会

7 月 10 日の参議院選挙が終わると、国は中断していた沖縄県東村・高江のヘリパッド建設を再開しました。抵抗する住民を警官・機動隊員が暴力的に排除して工事を強行し、現在に至っています。三年前に作られた「標的の村」は、文字通り「今」を描いた作品となりました。そうしたこともあって、たくさんの人が上映会に協力してくださいました。

・チケット販売枚数…185 枚　・来場者数…135 人　・カンパ…6 万 9 千円

皆様のおかげで、映画会は黒字を計上しました。いただいたカンパは全額を沖縄基金の元金とし、沖縄支援の活動に使わせていただきます。ありがとうございました。

アンケートの中から感想をいくつか紹介します。（全文は「市民ネット」の HP に掲載してあります）

◆このような映画を是非若い人たちに見てほしいと思う。この事実・現実を自分のこととして、沖縄の心を我が心として応援し続けていきます。そういう人たちが増えてほしい。怒りと悔しさと悲しさでいっぱい。見ることが出来てすごくよかった。

◆すごく感動しました。沖縄の人たちは緊迫した状況の中でも歌があるんですね。60 年間闘ってきた強さがあるのだと思う。

◆沖縄問題、ニュースやネットでもいろいろ見ていましたが、自分にとっては遠い問題だと思っていました。でも今回上映の映画を見てショックを受けました。もっともっとこの現実を知らせてください。ニュースで取り上げてください。日本中の人に見てもらいたい映画です。9 歳の娘と一緒に見ましたが、90 分まったく目を離さずに見ていました。

◆胸がかきむしられる苦しい気持ちになりました。涙が止まらない。本当のこと!!知ることが出来て。本当の幸せになるために自分たちに何ができるのか。戦争をしない国にするために、子どもたちのために、しっかり向き合わなくてはいけないと思った。

新しいつながり

上映活動を通じて、新たな人のつながりが生まれました。総括文から引用します。

「戦場ぬ止み」に比べて、若い人や見慣れない人の参加が多かったような気がします。135 人のうち 20 人を超える人たちが「戦場…」には来られなかったのではないかと思います。その中には、三島・沼津から来た永島香さんたちのグループがありました。松崎町から来た西原さんたちがいました。佐藤龍彦さんのつながりでみえた若い人たちもいました。

今回の上映会の目的の一つに「市民の横へのつながりを広めるとともに、世代間をつなぐ動きを作っていく」ことをかかげました。横への広がりに関しては、伊東の外へと運動が広がっている兆候があります。また、世代間をつなぐ動きとしては、「沖レポ」の取り組みから続く若い人たちとの協働の芽が生まれつつある、と言っていいように思います。これをどう育てていくかが課題となります。

8 月 1 日～5 日、夏休み保養ステイ

「子どもたちを放射能から守る伊豆の会」では、毎年フクシマの子どもたちを伊東に招いて保養ステイを行っています。今年は小学生 18 名が参加し、城ケ崎や大室高原を舞台に自然と親しみ心身を開放する楽しい時間を持ちました。高校生や大学生もボランティアで加わりました。安部川さんから、以下のメッセージをいただいています。

2016 夏休み保養ステイのお礼と報告

3.11 原発事故から５年が経過しました。

今年も福島市、郡山市、いわき市、そして相模原市、八王子市に避難している子どもたちを含め１８人、保護者２人の計２０人を迎え、８月１日～５日まで４泊５日の保養を無事に終えることが出来ました。

今回は城ヶ崎散策、プール遊び、大室山散策、雨対策の室内レクリエーション、はり絵の絵はがき作りを楽しみました。特に青い海が間近に見えたことが喜びだったようです。そしてリフレッシュして元気に福島に帰って行きました。

今回は「平和と人権」市民ネットワークへご支援の呼びかけをさせて頂き、スタッフ、ボランティア、資金カンパと、協力者の広がりが出来たことを嬉しく思っております。市民ネットワークの皆様方に心よりお礼申し上げます。

福島の子どもたちを取り巻く放射能に対する環境は不安な状況です。甲状腺ガンが疑いも含め１７２人になりました。それなのに福島県では甲状腺検査縮小を視野に入れた動きが出ています。放射能による健康影響を受けやすい子どもの命を守らなければいけない国が全く動こうとしない。むしろ帰還に向けての政策を進

めています。

全国の市民による支援活動が展開されていますが、皆様が 3.11 福島原発事故を忘れないで、これからも心からのご支援を寄せて下さることで一人でも多くの子どもたちを保養に迎えることが出来ます。
これからもご支援下さいますようお願い申し上げます。

子どもたちを放射能から守る伊豆の会
安部川てつ子

8月6日　原水禁世界大会参加

新日本婦人の会の伊藤泰子さんが、伊東から参加されました。以下はその報告文です。

2016 年　原水爆禁止世界大会に参加して

「被爆者は、すみやかな核兵器廃絶を願い、核兵器を禁止し廃絶する条約を結ぶことを、すべての国に求めます。」という「ヒロシマ・ナガサキの被爆者が訴える核兵器廃絶国際署名」がスタートし、また、国連では、「核兵器のない世界」を実現するための「具体的で効果的な法的措置」を議論する作業部会が設置された今年、２０１６年の「原水爆禁止世界大会」に参加してきました。

初めての参加がこんな意義深い年となり、いつまでも忘れることのできないものとなるでしょう。　しかし何故か初参加のような気がしないのです。多分、「平和教育」を進めるためということで、３０数年前、気の合う仲間数人で、８月６日の平和記念式に合わせ、広島に行き、式典に参列、その後、「似島（にのしま）」に行ったことがあったのです。そこで出会った人（年配の女性だったと思います）が語ってくれた話が強烈に焼き付き、その経験が今回の大会参加、そして「にのしま少年少女のつどい」に是非とも参加したいという思いに繋がったのです。

その方の話は、「あの日以来、広島から船で検疫所（似島には、日清戦争の頃から陸軍検疫所があった）に死んだ人、まだ息があるのに死体の上に乗せられた人が毎日運ばれてきた。そして島の中では死体を焼いたり、そのまま埋められたりしていた。」と。

今回参加した 2 日目の分科会「少年・少女のつどい」の説明で、昨年まであった軍関係の遺跡がなくなっているなど、軍都「廣島」が消し去られていることを伺い、今回参加してよかったと改めて思いました。それと子どもも大人も一緒に（子どもの引率者としてではなく）現場を見て、話を聞く価値が大いにある「似島」だと思いました。

新日本婦人の会伊東支部　伊藤泰子

8 月 26 日～29 日、北上田源さん来東

琉球大学にお勤めの北上田源さんが、伊豆の社会科サークル「ゆい」の招きで、伊東に来られました。伊豆の各地で「沖縄の今」を語っていただきました。以下、加藤好一さんの報告です。

伊豆の各地で「沖縄の今を知るつどい」を開催

伊東の青壮年 4 人が沖縄を訪れた際に現地をガイドしてくれた北上田源さん（35 歳）。伊豆の社会科サークル“ゆい”では、その源さんを 8 月 26 日～29 日にかけて伊東にお呼びし、次のようなつどいを開いて沖縄を語っていただきました。各小集会への参加者は併せて 110 名を越えました。

①26 日（金）夜―無料塾・寺子屋うさみで講話・『知ってるつもり？ 沖縄の今』　中学生 10 名・保護者 3 名・教員 1 名をふくむ 21 名が参加。生徒の側から基地に関する質問も出て盛り上がりました。

②27 日（土）午後―新日本婦人の会のつどいに招かれ講話・『沖縄 高江と辺野古で今何が？』　参加者 40 名。生々しい話にみなが聞き入り、ヘリパッド建設反対カンパ 2 万 5 千円と寄せ書きを託しました。

③27 日（土）夜―伊東などの社会科教員に実践報告・『違いを生かすアメラジアン教育』『沖縄でどう基地問題を教えるか』　　参加者 10 名。「世界が広がった」と 20 代の教員は述べました。

④28 日（日）午前―函南みんなの平和展にて講話・『沖縄 高江と辺野古で今何が？』　参加者 30 名余。現地の映像に衝撃。伊豆からの青年派遣にも使えるよう、カンパ 3 万 3 千円が寄せられました。

⑤28 日（日）夜―6 月に沖縄へ行った青壮年等と懇親　　参加者 7 名。青壮年再派遣の声が出ました。

◆源さんからのコメントは？

「地道にしっかりと人をつなぎ、活動をつなげていくことの重要性を改めて感じました。遠く離れた伊豆・伊東にもこれだけ沖縄のことについて関心を持ってくださる方がおられるということに励まされた思いです。これからも頑張りたいと思います。」

◆伊豆から再び青壮年の派遣を!!

9 月 16 日の市民ネット事務局会議では、前回派遣団の一人を団長として再び伊豆から 4 人以上の青壮年を沖縄の現地に派遣することが決まりました。カンパもさらに募りたいと思います。どうぞご支援を!

9 月 19 日、強行採決から一年、抗議行動

自衛隊が米軍とともに海外で戦争できる道を開いた安保法が強行採決されて一年になります。時がたっても違憲の法律は違憲です。9 月 19 日、全国各地で抗議行動・集会が開かれました。伊東では観光会館前でスタンディング・アピールを行いました。雨模様のなか 60 人近くの人が集まり、抗議の意志を力強く訴えました。主催した「総がかり行動・伊東連絡会」の伊藤廣光さんから報告してもらいます。

小雨まじりの午後2時、伊東市観光会館前にズラリと並んだ人たちが「戦争法は今すぐ廃止！」「憲法9条守れ！」「野党は共闘！」と大きな声でコールしながら“アベ政治を許さない！”“誰のこどもも殺させない！“”不屈“などのプラカードを掲げて前を通る車にアピールをしました。

スタンディングのあと観光会館の会議室に集まり、沖縄の英雄「瀬長亀次郎」の生き様を描いたビデオを見て、現在の沖縄の状況を話し合ったり、憲法改悪に対して今後どう闘うかについて意見を出し合ったりしました。

論　説

本当にそうなの？　安保法（戦争法）と北朝鮮・中国問題6つの疑問

―第二回(完)―

加藤好一

多くの市民が戦争法に反対する中、「安保法は北朝鮮が攻めてきた時米軍に守ってもらい、中国から尖閣を守るために必要」と言って廃止署名を断る人もいたそうです。本当にそうでしょうか。

◆中国の尖閣領海侵犯は許せない。その対策に安保法が必要では？

２０１２年９月以前の１年間、中国船による尖閣領海侵犯はわずか**３回**でした。ところがその９月に日本政府が尖閣を国有化すると、以後１年間の尖閣領海侵犯は**６３回**に激増します。

もとより悪意の領海侵犯は許せません。しかし真に緊張緩和をめざすなら、国有化以前に現状変更についてよく中国側と話し合うことが大切です。

尖閣の平和を守るために戦争法はいりません。必要な事は双方の自制と外交による話し合いです。

◆それでも中国の海洋進出は驚異。やはり安保法は必要では？

進出は事実で対応も必要ですが、自衛隊も那覇空港に基地を置き、さらに南西諸島（与那国島・宮古島）にまで進出しています。本土からは遠く感じるこれらの島々も、右の地図のように中国・台湾側から見れば目と鼻の先。相手側の警戒感も高まります。

ここで日中間の貿易（%）を見ると次の通りです。

≪2014 年日本≫ 輸出 ①米国（18，7）**②中国（18，3）**　③韓国（7，3）

≪2014 年日本≫ 輸入 **①中国（22，3）**　②米国（8，8）　③オーストラリア（5，9）

※中国側から見ると、尖閣はもちろん自衛隊が基地をつくる与那国・石垣・宮古は目の前にあります。

中国は日本の第２位の輸出相手国であり、第１位の輸入相手国です。尖閣をめぐって武力衝突が起きれば、この関係が破壊されます。観光客も激減して、両国経済は大打撃を受けるでしょう。

双方にとって「戦争」は大きなマイナスです。ならば、中国は進出をやめ政府も「尖閣に領土問題は存在しない」との態度を改めて話し合いに入り、双方の抑制と合意を図るべきです。

戦争法を発動して米軍の海外での戦争に協力することは、尖閣問題の解決につながりません。

◆安保条約で米軍が尖閣を守る。それに協力する安保法は必要では？

この６月 15 日、日米・インド海軍の演習が沖縄周辺海域で行われました。すると中国の軍艦が日本の領海内に入ります。それに関してアメリカ政府は、「尖閣は日米安保条約の適用範囲内」と言いました。

では、米軍は尖閣を守るために中国と戦うでしょうか。いいえ、「日米防衛協力の指針」（2015 年４月改訂）には、尖閣をふくむ防衛は自衛隊が第一義的に責任を負い、米軍はその支援と補完を行うとあります。安保法に従って日本が海外で米軍の戦争に協力しても、アメリカは尖閣で米中戦争を始めません。

つまり、安保法による「集団的自衛権の行使」でアメリカのために自衛隊員が血を流しても、米軍は尖閣を守るために命を投げ出すことはないのです。

「私は、**わが国の平和と独立を守る**自衛隊の使命を自覚し、**日本国憲法および法令を遵守**し・・・」これは自衛隊員が行う服務の宣誓の冒頭です。（一部をゴシックに変更）

政府による集団的自衛権行使は、自衛隊自身が主張してきたこの「専守防衛」の原則さえも逸脱しています。日本を戦争する国に変質させる戦争法＝安保法は廃止しましょう。憲法 9 条を活かす平和外交と東アジア共同体に向けた話し合いこそが、中国・北朝鮮との緊張を緩和させる道でもあると思います。

10 月 15 日、WAU（ワウ）バンド・平和コンサート

・何時
　➡10 月 15 日(土)18:00~
・どこで
　➡ひぐらし会館
・参加費
　➡無料

〔問い合わせ先〕
浦島浩司さん(090-2297-7376)

※詳しくは同封（添付）のチラシをご覧になってください。

（「赤旗」2016 年８月８日より）

ひと

励ますのが大好きなシンガー・ソングライター

浦島浩司さん（65）

静岡県内の平和集会や介護施設などで、みんなを励ます柔らかな優しい歌声が好評です。

「このままじゃいいわけないさ♪自衛隊員が武器を持って戦場へ行くなんて♪」。安倍政治を問う歌も精力的に制作。地元・伊東市のFMラジオで毎週１回パーソナリティーを務める番組で弾き語りもしています。

5年前までは中学校教師でした。「いいんだよ♪失敗したって♪」と子どもや同僚を励ます歌も多数、作詞・作曲しました。

大学卒業後にギターを始め、1978年にはポピュラーソングコンテストで並みいる歌手たちを押さえグランプリを獲得。世界歌謡祭にも出場。ところが、その後、次曲へのプレッシャーから歌がつくれなくなり、「チャンスと試練をもらいました」。

転機は結婚して1カ月、脳の手術を受けたこと。自分のことしか考えてなかった人生が変わり、「俺にもできることをやってみよう」と再び歌をつくるようになりました。

「今の社会で一番たりないのは人のつながり。今後は、困っていることやグチを言ったりする、みんなのよりどころになる秘密基地のようなお店をつくりたい」と目を輝かせます。

人生の支えは妻。なんでも言い合って受け止め合える存在です。いつも健康のことで気を使ってくれて頭があがりません。「支え合って生きて、一緒の墓に入りたい」と、クリスチャンになったことを話します。

文・写真　内田　伸治